

## なぜ正しい採土が大切か？

SMART施肥設計を行うためには、正確な土壌分析が必要です。それには適切な場所の土を調べることが重要です。質のいい作物をつくるための第一歩は、正しい採土を行うことから始まっています。

複合土壌分析  
のステップ

1. 採土

2. 分析

3. 診断

4. 施肥提案

## いつ採土するのか？

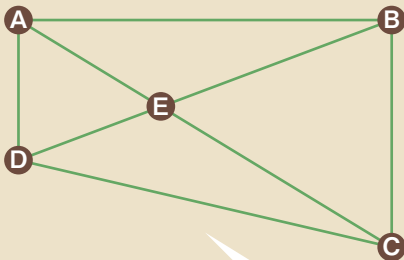
基本として、施肥前及び耕うん前の状態で採土してください。 ※予防分析の場合は、栽培終了後。

## どこで採土するのか？

ほ場全体の状態を診断するため、下図5カ所の土を混合したものを計測します。

- ① 各所からそれぞれ 500g を採土して混合します。
- ② ①で混合した土 2,500g から 1,000g を抽出し、それを 1 検体の試料としてビニール袋に入れてください。  
(乾燥させる必要はありません)

ほ場全体

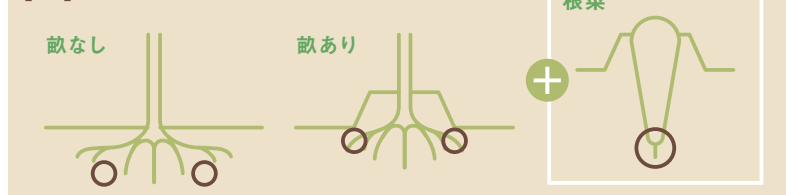


### よくある質問

- ◎ 段々畑など高低差があるほ場の場合は？
  - ① 高所・低所・その中間の土が採れるように、位置を調整してください。
  - ◎ ハウス栽培をしている場所とない場所があるのですが？
    - ① 1カ所はハウスのある場所(またはない場所)が含まれるように調整してください。
    - ◎ 病害・生育障害の場所があるのですが？
      - ① 障害区と正常区に分けて、2検体を採土してください。

上図A～Eの各部において、地表から10～20cm程度の深さ、“根が張る部分(根郡域)の土を採ってください。一般的には、畑ならば作物の両肩の下方、畝がある場合は畝の両肩の下方、果樹の場合は果樹の根元と雨落ちの下方の土を採集してください。根菜の場合は根の再下部周辺の土も含めた3箇所を採集してください。

【畑】



【果樹】

